人口推計から見る将来像

～第９次総合計画 後期計画の策定に向けて

令和５年 12 月、国から各自治体の人口の動きを予測した「日本の地域別将来推計人口」が公表されました。

今回の特集ではこの報告をもとに、令和８年度に予定されている第９次総合計画の後期計画策定に向けて、様似町の将来像について考えます。

データが示す将来像

「日本の地域別将来推計人口」は、各自治体の人口の動きを明らかにし、将来の社会のあり方やさらなる地方の過疎化の進行についての予測を示しました。

この報告によると、2050 年（令和 32 年）までに様似町の総人口は 1,706 人になると予想されていています。数値データをグラフ化したもの（ページ中央）を見ると、特に 15 歳から 29 歳の若い世代の数がとても少なくなっています。

高校を卒業後に

この現象の背景には、さまざまな要因が考えられますが、その中でも重要なのは、高校卒業後に進学や就職のために多くの若者が町外へ出て、そのまま戻らないということです。

若い世代が地元に戻らない理由、地元に戻ってきてもらうためには何が必要なのかについて、考えていきたいと思います。

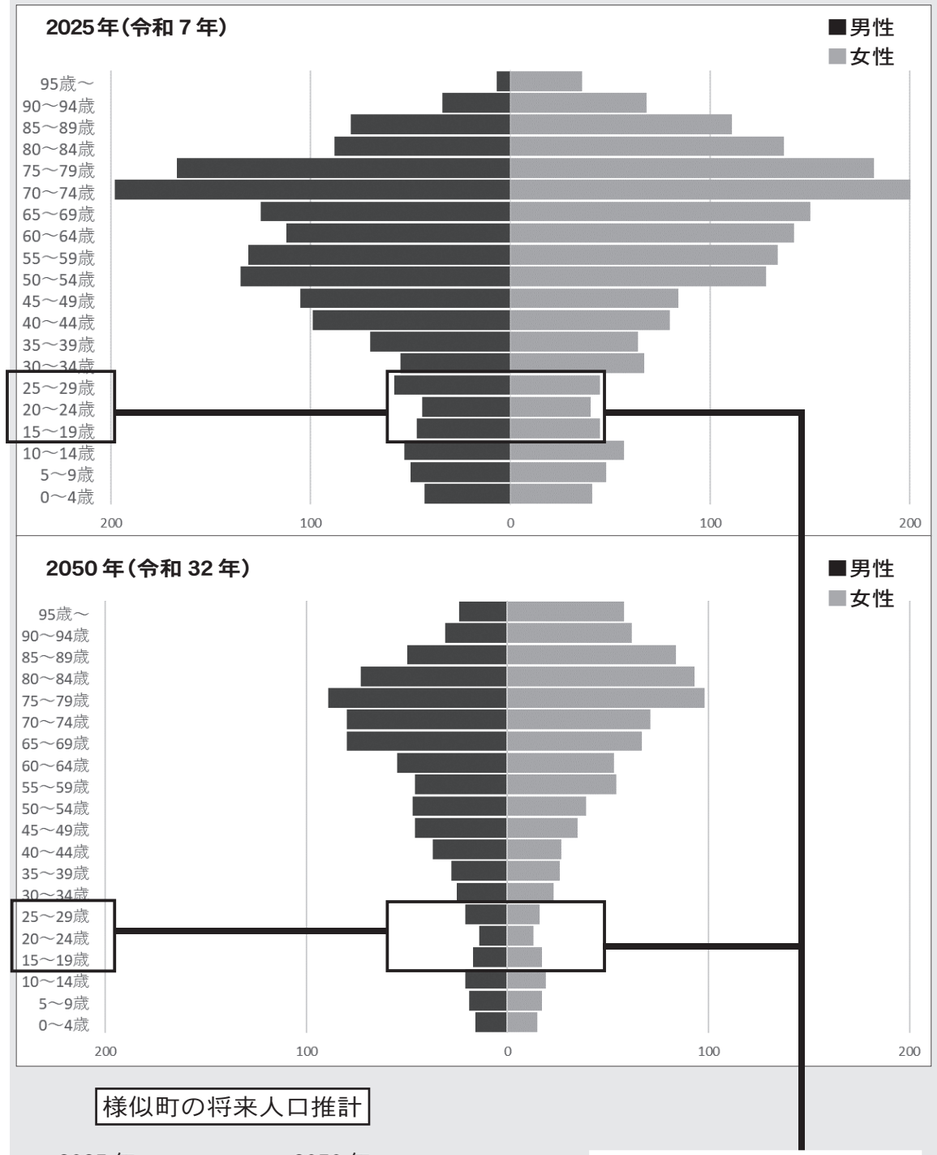
「第９次様似町総合計画」

様似町のまちづくりを推進するための基礎となる指針。令和３年度に策定され、計画期間は 10 年。5 年ごとに基本計画の見直しが行われます。

この計画では令和 12 年度を目標年度とし、めざす人口を 3,100 人と設定しています。

「日本の地域別将来推計人口」

「国立社会保障・人口問題研究所」は５年ごとに国勢調査の結果をもとに人口の将来推計をまとめていて、今回は令和２年度の国勢調査の結果をもとに、自治体別の推計を公表しました。



様似町の将来人口推計

2025 年（令和７年）3,562 人 → 2050 年（令和32年）**1,706 人**

今後 25 年で人口が約半分になると予測されています。

四角で囲っている部分が15歳～29歳のデータです。

西暦	男性	女性
2025 年	149 人	130 人
2050 年	52 人	46 人

若者が地元を離れる理由

町の若年層の人口が減少している現状は、様似町の将来にとって重要な課題となっています。

若者が地元を離れる・戻ってこない主な理由としては、高等教育や就職の機会、仕事の選択肢、さらには現代求められている多様なライフスタイルや文化が大都市圏に集中しているということが挙げられます。

しかし、この問題を「都会の魅力に負けている」と捉えるだけではなく、若い世代に地元での生活や就業の可能性を見出してもらうことが重要です。

▼就職・進学のため

都市部では大学・専門学校などの進学先やスキルアップのための教育機関、仕事の選択肢が豊富にあります。キャリアアップの機会も多く、魅力を感じる若者が多いです。

▼多様なライフスタイルや文化を求めて

自身が希望する生き方を実現するため、また、文化や趣味などの活動で自己表現を追求するために、人との出会いが多い都会へ行くことが考えられます。

地元に戻ってこられる環境づくり

“若い世代に地元に戻ってきてもらう”この目的を達成するためには、若者が地元で働けることや経済的に安定して生活することができる条件を提供することが必要です。また、家庭ということに焦点を当てると、充実した子育て支援や柔軟な勤務体系（パートタイムやフレックスタイム制）などの制度や取組があげられます。

次のページでは、浦河高校に通う生徒に協力していただき、高校生たちの実際の声を聞いてみました。若い世代の声は、人口減少・流出という課題について理解を深め、様似町の将来像を考えるためにも欠かせないものです。高校生が示した視点を第９次総合計画の後期計画策定のプロセスに取り入れることで、若者のニーズに合致した施策を考えていくことができます。

浦河高校の生徒に実際のところを聞いてみました。

様似町へのＵターンは

――高校卒業後の進路や目指している職業があれば教えてください。

白川さん　卒業後の進路は大学に進学して生物について学びたいなと思ってます。将来就きたい職業については具体的にはまだ決まっていません。

中島さん　大学に行きたいなって思っています。仕事とか将来の夢とかは決まってないんですけど、進学を考えています。

久保田さん　大学に進学して経営のことについて勉強したいと思っています。

――大学に進学した場合、卒業後に様似町に戻ってくると思いますか？

白川さん　大学を卒業して、どういう職業に就きたいかはまだわからないんですけど、やっぱり都会の方が様似より仕事の選択肢がたくさんあって…あんまり帰ってこようとは思わないです。

中島さん　私も多分帰ってこないと思います。理由は、都会の方が仕事もたくさんあるし、人がたくさんいて、いろいろな人と知り合うことができるので、帰ってこないかなと思います。

久保田さん　戻ってこないつもりでいます。都会の方がやれる仕事も多いし、自分がこの仕事をやりたいって思ったときにすぐにできるので、都会にいたほうがいいかなと思っています。

中島　朱梨さん　２年生
人文・自然系列
様似はご飯や海産物がおいしくて、優しい人が多いと思います。

白川　遥希さん　２年生
人文・自然系列
様似は昆布、イチゴ、アポイ岳など自然の魅力がいっぱいある町だと思います。

久保田　夏実さん　２年生
人文・自然系列
様似のいいところは、自然が豊かで景色が美しいことだと思います。

若い世代が求めていること

――様似町で若い世代の人が仕事や生活をしていくためには何が大切（必要）だと思うか教えてください。

白川さん　なかなか職業を増やすっていうのは難しいと思うので、様似町だからこそできるような漁業とか農業とかの魅力を若い世代に広めていって、様似町に残ってもらう人を増やすことがいいのかなと思います。

中島さん　人が住みやすい町にすることが大事だと思います。特に交通面では地理的に都市部と遠いので、どうにか整備をして若い人が働きやすくなるといいと思います。あとは、様似町ならではのジオパークをさまざまな方面で活用していければいいのかなって。

久保田さん　今ある仕事を若い人にも伝えられるような機会をどんどん増やしたほうがいいと思います。様似町だけじゃなくて町外へも。今だとSNSとか使ってアピールしていくのがいいんじゃないでしょうか。

白川さん　新しいことではないですが、小学校や中学校でやったインターンシップを、もっと職種を増やしたり、回数を増やしたりして続けていくのは効果的だと思います。

――町からの経済的な支援や子育て支援が充実していることが、地元に戻って来ようという動機になりますか？

白川さん　やっぱり希望の職業がないと戻ろうという気にはならないんですが、もし迷っている人だったら取っかかりにはなるので、支援があるほうがいいと思います。

中島さん　私が今思うのは、子どもの医療費が０～18歳まで無料っていうのはすごく助かってる人が多いと思うので、続けていってほしいなと思います。支援があるから戻ってくるかは…わからないです。

久保田さん　迷っているなら支援が充実してるほうを選ぶような気がします。ただ、自分のやりたい仕事が見つかっているなら、支援が充実していても戻らないと思います。

◆今回のインタビューでお聞かせいただいた、貴重なご意見は令和８年度に予定されている第９次総合計画の後期計画策定において、重要な参考資料として活用させていただきます。